



動物レスキュー通信

2021年6月 第97号 (令和3年6月1日発行)

発行元

一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

人とイヌの関係

その歴史とイヌの起源



2020年12月に発表された一般社団法人ペットフード協会「令和2年 全国犬猫飼育実態調査」によると、全国の犬の飼育頭数は約849万頭で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で在宅機会が増え、新たに犬を飼い始める人が前年に比べ11.6%もUPしているようです。しかしその分、飼育に慣れない人や知識の浅い人も飼い始めるきっかけとなっており、不幸な犬が出てきてしまっているのも現実です。そこで今回は犬と人間の関わり、その歴史についてお話し、その特性などを改めて知っていただきたいと思います。

イヌの起源

今から1万年以上前、人間は食料、衣類、労働力などとして野生の動物を活用する

すべを知りました。遊牧民によってヒツジ

やヤギが家畜化され、衣類の原料や食肉

用として計画的に繁殖させました。その

後、定住生活が広まっていき、豚が食肉用

として家畜化されます。そして労働力と

して活躍できる牛が家畜化され、乗り物

として馬が家畜化されます。そんな中で

人間と犬の共同生活が始まります。定説

では約1万2千年前に中近東のあたりで

家畜化されたのが始まりだという事です。

その祖先は「ハイロオオカミ」だといわ

れています。人間と共生する犬の役割と

しては狩猟の助手はもちろんの事、その

優れた聴覚と嗅覚を生かし、危険な野生

動物から人間を守る夜の見張り役として

も活躍していました。このように犬が人

間と上手に共生できたのには大きな理由

があります。それは人間と犬はアイコン

タクトができたからではないかという事

です。犬には人の視線や指差し等の意味

を理解できる特有の「コミュニケーション能力」があるのです。ヒト科に属するチンパンジーはとても能力が高く、記憶力や学習能力、知覚情報処理する高い能力をもっているのですが、人の視線によるシグナルを読みとる能力に関しては、犬の方が能力が高く、訓練の有無や人との生活体験の有無に関わらず読み取ることができるようです。また、犬の瞳は人間と同様に白目と黒目の境目がはっきりしており、その事からも視覚による「コミュニケーション」には有利だといえます。このような特性が人間と犬との絆を大いに深める要因になりました。

イヌの歴史

このように人間との良い関係性を築き

伴侶となった犬は、人々と共に世界各国

に渡ることとなります。アフリカ大陸で

進化した人類がユーラシア大陸を経て

ベーリング海峡を渡り、アメリカ大陸に

上陸した時にも犬と一緒にいたのではな

いかと言われています。日本においても

縄文時代に縄文人が犬と一緒に日本列島

に渡ってきて以降、狩猟の助手として大

切にされていきました。しかし弥生時代に

弥生人が渡来し食犬の習慣が広まり、食

用の犬と弥生時代の犬とが繁殖し、日本

古来の日本犬が誕生したようです。そし

て明治維新以降にヨーロッパから様々な

犬種が持ち込まれるようになり、日本犬

と繁殖。明治時代の終わりに、純粋な日

本犬は激減してしまいます。その後、19

28年に日本犬保存協会が発足され秋田

犬、紀州犬、甲斐犬、柴犬、四国犬、北海道

犬などが次々に天然記念物に指定された

のです。人間は犬に今まで以上に自分た

ちの生活の助けとなるような能力を求め、例えば吠えて獲物を追う能力が高い犬同士、高い嗅覚で獲物を探す能力が高い犬同士など、様々な特徴の犬を交配させ、新たな犬を作り出すようになりました。このようにして様々な能力、性格、容姿、特徴を持った犬が生れたのです。数百年前からより計画的、積極的に新種改良が行われ、体重2kgほどのチワワから60kg以上もある立派なセント・バーナードまで、実に700種以上の品種が誕生し、人間と暮らしています。このように、最初から人間と共生することを目的に人間の手によって作られた犬たちですから、野生動物とは異なっています。野生動物は成長するとともに厳しい生存競争にも耐えうる強い警戒心が芽生えますが、犬は成犬になっても人や犬に甘えることが得意で、いつまでも遊び心や好奇心が旺盛です。そしてまた人間もいつまでも子供の心を持ち続け、新しいことに挑戦する心を持っています。そんな似た傾向を持つ犬と人間ですから自然と心が通じ合い、素敵な関係を築くことができるのだと思います。

犬の歴史を知り、その特性を知ることが

犬との共生を考えるきっかけとなり、す

べての犬がその命を幸せなまま全うでき

ることを常に願っています。(詩月)